

音の一句

名句鑑賞

古池や蛙飛び込む水の音

春の日中、庵のかたわらに古くて忘れられたような池の水面に蛙（ここでは、かわずと読みます）の飛び込む音が聞こえます。その音があたりの静けさの中にひびいています。芭蕉の俳句の原点というべき代表句です。季語は「蛙」で、春の句です。



松尾 芭蕉

越後屋に衣さく音や衣替

この句の越後屋とは、江戸日本橋駿河町にあった呉服店です。松阪出身の三井高利が現金掛け値なしで開店した、今の三越百貨店の前身です。評判の店の前を通ったら衣地を裂く音が絶え間なく聞こえてきます。更衣のところで店が繁盛しています。初夏の生き生きとした感じが伝わります。季語は「衣替」で、夏の句です。

榎本 其角

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

実際は東大寺のそばの宿に泊まって大和（今の奈良県）名産の御所柿を口にしたとき、東大寺の鐘の音を聞いたことがもたになっていきます。法隆寺へは翌日でかけました。柿を食うというきどらないで親しみのわくしぐさと、歯切れの良いリズムなどから、おだやかな大和の雰囲気を感じることができます。季語は「柿」で、秋の句です。

正岡 子規

水枕ガバリと寒い海がある

病気で高い熱がでて寝ているときのことです。頭の向きを変えると「ガバリ」と水枕の鈍い音がしました。と同時に頭の中が一瞬に寒い海になったような暗い気持ちに襲われました。現実の水枕とその嫌な音が死を連想させる不安となったのです。季語は「寒い」で、冬の句です。

西東 三鬼

省略について

俳句では、散文のようにならないようにことばを選びます。「切れ」も省略の一つです。上の句で「古池や」を「古池に」とすると単に蛙が飛び込んだ場所の説明になってしまいます。「や」という切れ字（他には「かな・けり」など）を入れて、つながりを切るとしんと静まりかえった古池のイメージが強調され、その静けさを破る「水の音」に詩的な感じがします。また、人のやったことや物のようすを表すことばや、主語などを書かないことがあります。そうすることによって、説明的でくどくなることを避けます。動詞を使わないで、「て・に・を・は」のことはをうまく使い、後に残る味わいを楽しむことをします。



子どもの俳句から

春

授業中うぐいす鳴いてる青い空

小学生

佐藤

琢磨



水の音ひとしずくごとに春になる

小学生

藤木

俊

夏の
氷の音ぼくのコップに夏が来た

小学生

河口しゅん介

友とけんかまだ雷が鳴っている

小学生

松本

拓真

煮物する祖母の背中や遠花火

中学生

大崎

聖之

鑑賞のポイント

☆春のあたたかさ、すがすがしさが伝わります。青い空も印象的です。季語は、「うぐいす」です。

☆雨が降るたび、あたたかさを感じる春の日、水の音に親しみをかんじているようです。季語は、「春」です。

☆涼しげにガラスコップにひびく氷の高音は夏を象徴する音です。季語は、「夏」です。

☆友だちとのケンカは、終わってもなにか興奮が収まりません。季語は、「雷」です。

☆煮物をする祖母の背中から受ける感じと遠くであがる花火が印象的です。季語は、「遠花火」です。

サクサスの音色をはこぶ南風

中学生
山口 遥香

秋
オカリナをほおほおふいてあきをよぶ

小学生
貝瀬 理紗

秋天に組体操のホイッスル

中学生
菊池 琴江

冬
さわさわと落ち葉のダンスが始まった

小学生
桐木 佑実

冬の朝静寂という音がある

中学生
柳田美香子

鑑賞のポイント

☆サクサスの音と南からの風に若々しさを感じます。季語は、「南風」です。

☆「ほおほおふく」ということばにオカリナを感じがでています。季語は、「あき」です。

☆「ホイッスル」という体言止めに秋空の中の力強さを感じます。季語は、「秋天」です。

☆風に舞う木の葉は、まるで楽しいダンスをしているようですね。季語は、「落ち葉」です。

☆冬の寒い朝、耳には聞こえない音人は感じるができます。季語は、「冬の朝」です。

創作（音の句を作ってみよう）

○音の印象、いんしやう 思い出など、いろいろ書き出してみましよう。

○音に關係する季語を集めてみましょう。

○音の句を作ってみましょう。

[illegible]